

1 磐田市防潮堤整備事業について

(1) 太田川河口部付近における防潮堤整備事業について

太田川左岸より袋井市境までの、防潮堤整備で今後予定される整備事業計画を伺います。

隣接自治体（袋井市）境の防潮堤整備事業計画において、堤防接合部における袋井市との合意計画内容を伺います。

太田川河口の河川内の右岸・左岸における防潮堤整備について伺います。

(2) 浜松市沿岸防潮堤整備による磐田市への影響について

県交通基盤部の発表で、レベル 2 津波発生 の仮定において、浜松市の防潮堤からの反射により、その影響を受け天竜川河道で局所的な水位上昇が発生するとあります。

現況堤防高の最大水位と 1 3 m 防潮堤整備後の最大水位及び最大水位の差を伺います。

天竜川の河川内の水位が上昇し、磐田市では津波の浸水面積が約 2 h a 増加すると検証されています。この検証をふまえた本市の津波対策の対応と今後の整備計画を伺います。

(3) 防潮堤の強度について

2 6 年 1 1 月議会の志政会の代表質問に、「津波に対する耐久力の検証は、市単独で行うことは技術的に困難であることから、県に対し実施を要請しています。」との回答でした。

浜松市では「CSG ダムの設計・施工法を開発した財団法人ダム技術センターと度重なる協議を行い、砂地盤の上でも防潮堤が安定することができる地盤強度を設定した。」とあります。

隣接する自治体（浜松市）が具体的な工法を提示し、強度の設定をしています。本市が県に耐久力の検証を要請して 1 年余が過ぎましたが、その後の実施経過を伺います。

単独の自治体での検証が困難な理由と、現在建設中の防潮堤の地盤調査方法や工法、及びその調査方法や工法選定理由を伺います。

## 2 磐田市の諸課題について

### (1) 交通事故について

今年度における磐田市の交差点事故件数、高齢者事故件数、15歳以下の事故件数、及び各々の死亡事故件数と人身事故件数割合を伺います。又、前年度比を伺います。

各死亡事故現場で事故後の対処と今後の対応を伺います。

高齢者の死亡事故が多く発生しています。事故後の対処と今後の対応を伺います。

2月8日に市内の県道交差点で起きた、小学生死亡事故の、その後の各学校の通学路の検討、及び事故後の対処と今後の対応を伺います。

市内における「歩車分離式信号」の現況と、導入へ今後の対応を伺います。

### (2) 災害等における非常用電源について

市公用車に電気自動車を導入し、普段の走行時は二酸化炭素を排出しない環境に配慮した車として活用し、災害等において機動性のある非常用電源として防災拠点で利用する電気自動車導入の見解を伺います。

### (3) 各施設における市特産品の展示について

史上初のニュートリノ観測という大偉業を成し遂げた、岐阜県神岡町のカミオカンデは、磐田市下神増の浜松ホトニクスで製造された大口径光電子増倍管が観測したものです。

ノーベル賞をも受賞したこの光電子増倍管技術は、市の大きな財産であると考えます。このような市民の誇りである特産品を市内外に知らしめる事は、市民の郷土愛が増すと共に、市外への大きな宣伝効果も含まれ、人口減少社会において、本市移住へのアドバンテージにもなると思われます。

そこで、集客力の高い各施設（駅・高速道路PA・モール等）における市特産品の展示についての見解を伺います。